

現状での取組状況及び課題と概ね5年で実施する取組(①住民の防災意識、リスク意識に関する事項)

現状の取組状況及び課題		概ね5年で実施する取組		目標時期	取組機関
①住民の防災意識、リスク意識に関する事項					
住民の防災意識					
○平成28年熊本地震により、防災に関する関心が高くなってきている。					
●近年、大規模な洪水被害を経験していないことにより、防災意識の低下が懸念され、適切な避難行動がとれないおそれがある。	A	・洪水予報等の防災情報の意味や災害リスクに関する広報や資料の作成、周知	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・小中学校における水災害教育等の実施及び共通テキスト検討、作成	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・防災に関する継続性のあるイベント等の企画、実施	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・子供や高齢者へ、パーソナルカード（名前、連絡先、血液型等の情報を記載）の準備を促す啓発	平成28年度より順次実施	市町（住民）	
		・住民へハザードマップや実際の周辺状況等の事前チェックを促す啓発	平成28年度より順次実施	市町（住民）	
		・住民へ防災グッズや食料品の事前準備を促す啓発	平成28年度より順次実施	市町（住民）	
想定される浸水リスクの把握					
○計画規模の降雨による浸水想定区域等について、菊池川河川事務所より公表されている。					
○市町において洪水ハザードマップを作成され、配布されている。					
●洪水ハザードマップ等における浸水リスクが十分に認知されていないおそれがある。	B	・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域及び時系列氾濫シミュレーションの策定、公表	平成28年度より順次実施	熊本県、菊池川河川	
		・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域等を踏まえたハザードマップ及び避難計画の見直し	平成29年度から順次実施	市町	
		・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域等を踏まえた避難情報標識等の設置検討、整備	平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川	
		・洪水予報等の防災情報の意味や災害リスクに関する広報や資料の作成、周知	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
●想定し得る最大規模の降雨を対象とした浸水想定区域等が公表されていないため、計画規模を超える洪水が発生した場合の浸水エリアや水深等のリスクが認知されていない。					
洪水時における防災情報等の把握について					
○防災無線により、市町が提供する避難情報等を入手することができる。					
○河川水位、洪水予報等をテレビ（地デジ放送）を通じて入手することができる。					
○河川水位、洪水予報、ライブ映像（河川カメラ映像）等の情報を熊本県、菊池川河川事務所のホームページ等より入手することができる。					
●洪水予報等の防災情報の意味やその情報による対応が住民に十分認知されていないことが懸念される。	C	・地区の住民が主体となったマイハザードマップの作成・支援及び避難訓練の検討、実施	平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川	
		・洪水予報等の防災情報の意味や災害リスクに関する広報や資料の作成、周知	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・小中学校における水災害教育等の実施及び共通テキスト検討、作成	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・過去の水害を忘れないよう、まちなかの公共物に浸水深を示す等の「まるとまちごとハザードマップ」の検討、整備	平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川	
		・熊本県北地域全体の自然災害による被災履歴等災害情報を表示した広域ハザードマップの検討、作成	平成29年度から順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・大規模工場、拠点病院等への浸水リスクの説明と水害対策等の推進活動の検討	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
避難場所、避難経路の指定について					
○避難場所及び避難経路は、ハザードマップに記載されており、ホームページでも閲覧することができる。					
●避難場所、避難経路が十分に認知されていないおそれがあり、適切な避難行動がとれないことが懸念される。	D	・過去の水害を忘れないよう、まちなかの公共物に浸水深を示す等の「まるとまちごとハザードマップ」の検討、整備	平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川	
		・高齢者等の災害時要配慮者を対象とした訓練の検討、実施	平成28年度より順次実施	市町	
		・広域避難計画等を反映した洪水ハザードマップの策定、周知及び避難訓練の検討、実施	平成29年度から順次実施	市町	
		・下流部の洪水氾濫、高潮災害、土砂災害等における安全な避難の実施に向けた広域避難計画の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・災害の種類に応じた避難計画及び、避難所の指定及び運営検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県	
避難行動					
○自治体から提供される避難情報をもとに、住民の判断に任せている。					
●支川においては急激な水位上昇により、避難を行う時間的余裕が少なく、避難の遅れや孤立が懸念される。	E	・迅速な避難に資するための水位等のリアルタイム情報の提供に向けた、河川カメラ、簡易水位計の設置検討、整備	引き続き実施	菊池川河川	
		・高齢者も含む全ての住民へ避難情報を伝達するため、防災行政無線の調整、防災ラジオ配布等の検討、整備	引き続き実施	市町	
		・夜間でも視認可能な危険度レベル表示の工夫（定期的な伐採、照明、蛍光塗料等）	引き続き実施	菊池川河川	
		・橋梁や階段等の既存施設への分かりやすい危険度レベル表示の検討、整備	引き続き実施	菊池川河川	
●地域コミュニティの弱体化により、自治体が情報を発信しても、きめ細かな避難誘導に資する地域の体制が整っていない。	F	・自主防災組織の活動を更に活性化させるための取組	引き続き実施	市町	
		・被災地で現地対応した現場経験者のノウハウを生かした災害時のサポート体制づくりの検討	引き続き実施	市町	
防災に関する啓発活動					
○各種イベントにて、過去の災害等のパネル展示や出前講座等により、住民の防災意識高揚に努めている。					
●パネル展示等についても単発的なものが多く、関係自治体を含めた広がりのある取組となっていない。	G	・防災に関する継続性のあるイベント等の企画、実施	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・洪水予報等の防災情報の意味や災害リスクに関する広報や資料の作成、周知	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・小中学校における水災害教育等の実施及び共通テキスト検討、作成	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・子供や高齢者へ、パーソナルカード（名前、連絡先、血液型等の情報を記載）の準備を促す啓発	平成28年度より順次実施	市町（住民）	
		・住民へハザードマップや実際の周辺状況等の事前チェックを促す啓発	平成28年度より順次実施	市町（住民）	
		・住民へ防災グッズや食料品の事前準備を促す啓発	平成28年度より順次実施	市町（住民）	

現状での取組状況及び課題と概ね5年で実施する取組

現状の取組状況及び課題			概ね5年で実施する取組		目標時期	取組機関
②情報伝達、避難計画等に関する事項						
避難計画等						
○市町は、計画規模の降雨による洪水ハザードマップに基づき、避難計画を策定している。						
●想定し得る最大規模の降雨を対象とした浸水想定区域等が公表されていないため、計画規模を超える洪水が発生した場合の浸水エリアや水深等のリスクが認知されていない。	B	・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域及び時系列氾濫シミュレーションの策定、公表		平成28年度より順次実施	熊本県、菊池川河川	
		・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域等を踏まえたハザードマップ及び避難計画の見直し		平成29年度から順次実施	市町	
		・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域等を踏まえた避難情報標識等の設置検討、整備		平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川	
		・洪水予報等の防災情報の意味や災害リスクに関する広報や資料の作成、周知		引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングについて						
○避難勧告等の発令判断の目安となる洪水予報を、菊池川河川事務所と熊本地方気象台の共同で実施している。						
○水防に係る情報として、河川管理者が基準水位観測所の水位の動向に応じて自治体に「水防警報」を発令している。						
○大雨等による甚大な災害が危惧される場合は、気象台長より首長等に対して情報伝達（ホットライン）を行なっている。						
○熊本市とは、光ファイバー接続により、河川カメラ映像が確認できる。						
●熊本市以外の自治体においては、避難の判断材料となる河川カメラ等の切迫感のある映像情報を確認することができない。	H	・迅速な避難に資するための水位等のリアルタイム情報の提供に向けた、河川カメラ、簡易水位計の設置検討、整備		引き続き実施	菊池川河川	
		・水位情報、映像情報、竜門ダムの洪水調節情報等のリアルタイム情報の提供強化		引き続き実施	菊池川河川	
		・住民の避難行動や迅速な水防活動を支援するプッシュ型のリアルタイム情報提供の構築、整備		引き続き実施	熊本県、菊池川河川	
		・地元FMラジオや防災行政無線を活用した住民への防災情報の周知、他の自治体での普及検討、整備		平成28年度より順次実施	市町	
		・高齢者も含む全ての住民へ避難情報を伝達するため、防災行政無線の調整、防災ラジオ配布等の検討、整備		引き続き実施	市町	
		・自治体への光ケーブル接続とカメラ映像配信のための環境整備に関する検討、整備		平成28年度より順次実施	熊本県、菊池川河川	
		・水害リスクの高い箇所におけるサイレン等の設置検討、整備		引き続き実施	市町	
		・夜間でも視認可能な危険度レベル表示の工夫（定期的な伐採、照明、蛍光塗料等）		引き続き実施	菊池川河川	
		・橋梁や階段等の既存施設への分かりやすい危険度レベル表示の検討、整備		引き続き実施	菊池川河川	
		・河川情報及び近隣自治体の災害情報を共有できる情報共有手段の検討、整備		平成28年度より順次実施	市町、菊池川河川	
避難勧告等発令基準について						
○地域防災計画に避難勧告の発令時期や対象地区を記載している。						
○避難勧告の発令に着目したタイムラインを作成している。						
○河川管理者は、堤防の決壊、溢水等の重大災害が発生するおそれがある場合には、首長等に対して情報伝達（ホットライン）を行っている。						
●避難勧告の発令に着目したタイムラインは、実洪水や訓練を踏まえた検証ができていない。	I	・避難勧告の発令に着目したタイムラインの運用・検証及び改善に向けた見直しの検討（PDCAサイクルによるブラッシュアップ）、整備		引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・予防的避難など住民の自主避難につなげるため、熊本地方気象台からの情報提供の充実		引き続き実施	熊本地方気象台	
		・様々な情報提供ツール（SNS等）を活用した防災情報やリアルタイム情報の提供 （指定避難所以外や対象市町以外で避難可能な施設のお知らせ及び災害ボランティアの受入れ等）		引き続き実施	市町	
		・住民の避難行動や迅速な水防活動を支援するプッシュ型のリアルタイム情報提供の構築、整備		引き続き実施	熊本県、菊池川河川	
		・地元FMラジオや防災行政無線を活用した住民への防災情報の周知、他の自治体での普及検討、整備		平成28年度より順次実施	市町	
住民等への情報伝達の方法について						
○市町は防災無線により、避難情報等を提供している。						
○河川水位、洪水予報等をテレビ（地デジ放送）を通じて提供している。						
○河川水位、洪水予報、ライブ映像（河川カメラ映像）等の情報を熊本県、菊池川河川事務所のホームページ等より提供している。						
○急激な水位上昇が見込まれる支川においては、サイレン（大音量）吹鳴により住民に避難を促している。						
○河川のライブ映像をNHKに提供している。			C			
●洪水予報等の防災情報の意味やその情報による取るべき対応が住民に十分認知されていないおそれがある。	・地区の住民が主体となったマイハザードマップの作成・支援及び避難訓練の検討、実施			平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川	
	・洪水予報等の防災情報の意味や災害リスクに関する広報や資料の作成、周知			引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
	・小中学校における水災害教育等の実施及び共通テキスト検討、作成			引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
	・過去の水害を忘れないよう、まちなかの公共物に浸水深を示す等の「まるごとまちごとハザードマップ」の検討、整備			平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川	
	・熊本県北地域全体の自然災害による被災履歴等災害情報を表示した広域ハザードマップの検討、作成			平成29年度から順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
	・大規模工場、拠点病院等への浸水リスクの説明と水害対策等の推進活動の検討		平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川		
●支川においては急激な水位上昇により、避難を行う時間的余裕が少なく、避難の遅れや孤立が懸念される。	E	・迅速な避難に資するための水位等のリアルタイム情報の提供に向けた、河川カメラ、簡易水位計の設置検討、整備		引き続き実施	菊池川河川	
		・高齢者も含む全ての住民へ避難情報を伝達するため、防災行政無線の調整、防災ラジオ配布等の検討、整備		引き続き実施	市町	
		・夜間でも視認可能な危険度レベル表示の工夫（定期的な伐採、照明、蛍光塗料等）		引き続き実施	菊池川河川	
		・橋梁や階段等の既存施設への分かりやすい危険度レベル表示の検討、整備		引き続き実施	菊池川河川	
●現在の発信方法・伝達内容や方法では、住民へ切迫感が十分伝わっていないおそれがある。	J	・水位情報、映像情報、竜門ダムの洪水調節情報等のリアルタイム情報の提供強化		引き続き実施	菊池川河川	
		・住民の避難行動や迅速な水防活動を支援するプッシュ型のリアルタイム情報提供の構築、整備		引き続き実施	熊本県、菊池川河川	
		・地元FMラジオや防災行政無線を活用した住民への防災情報の周知、他の自治体での普及検討、整備		平成28年度より順次実施	市町	
		・高齢者も含む全ての住民へ避難情報を伝達するため、防災行政無線の調整、防災ラジオ配布等の検討、整備		引き続き実施	市町	
		・夜間でも視認可能な危険度レベル表示の工夫（定期的な伐採、照明、蛍光塗料等）		引き続き実施	菊池川河川	
		・橋梁や階段等の既存施設への分かりやすい危険度レベル表示の検討、整備		引き続き実施	菊池川河川	
		・想定し得る最大規模の降雨を対象した洪水浸水想定区域等を踏まえた避難情報標識等の設置検討、整備		平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川	
		・河川情報及び近隣自治体の災害情報を共有できる情報共有手段の検討、整備		平成28年度より順次実施	市町、菊池川河川	
●大雨時には、特に高齢者に防災放送が聞こえていないおそれがある。	K	・水害リスクの高い箇所におけるサイレン等の設置検討、整備		引き続き実施	市町	
●河川カメラの映像情報について、民放テレビ局への提供には至っていない。	L	・水位情報、映像情報、竜門ダムの洪水調節情報等のリアルタイム情報の提供強化		引き続き実施	菊池川河川	
●観光客や外国人に対する防災情報の伝達に関する体制が整っていない。	M	・観光客や外国人に伝わるわかりやすい情報伝達の検討		平成28年度より順次実施	市町、熊本県	
		・様々な情報提供ツール（SNS等）を活用した防災情報やリアルタイム情報の提供 （指定避難所以外や対象市町以外で避難可能な施設のお知らせ及び災害ボランティアの受入れ等）		平成28年度から順次実施	市町	

現状での取組状況及び課題と概ね5年で実施する取組

現状の取組状況及び課題		概ね5年で実施する取組		目標時期	取組機関
②情報伝達、避難計画等に関する事項					
避難場所、避難経路の指定について					
○市町は避難所を指定し、ハザードマップにより周知している。		N	・浸水時において確実な避難に資するため、適切な避難所の検討・設置及び運営	平成28年度より順次実施	市町
○同じ浸水想定区域に市町行政界が存在する。			・浸水時において確実な避難に資するため、避難経路の安全対策、検討、整備	平成28年度より順次実施	市町
●避難所の広域運営に関する体制が整っていない。（熊本地震後に、他の自治体から被災者が避難してきた。）			・様々な情報提供ツール（SNS等）を活用した防災情報やリアルタイム情報の提供 （指定避難所以外や対象市町以外で避難可能な施設のお知らせ及び災害ボランティアの受入れ等）	引き続き実施	市町
			・広域的に避難者を受入れられる避難所の把握検討、安全安心な避難施設（水洗トイレ、夜間照明、屋外グランド、駐車場等）の検討・整備	平成28年度より順次実施	市町
●浸水が広範囲におよぶ場合、避難所へ行くための主要道路が遮断され、住民が適切に避難できない可能性がある。		O	・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域及び時系列氾濫シミュレーションの策定、公表	平成28年度より順次実施	熊本県、菊池川河川
			・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域等を踏まえたハザードマップ及び避難計画の見直し	平成29年度から順次実施	市町
			・地区の住民が主体となったマイハザードマップの作成・支援及び避難訓練の検討、実施	平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川
			・広域避難計画等を反映した洪水ハザードマップの策定、周知及び避難訓練の検討、実施	平成29年度から順次実施	市町
			・熊本県北全体の自然災害による被災履歴等災害情報を表示した広域ハザードマップの検討、整備	平成29年度から順次実施	市町、熊本県、菊池川河川
			・避難及び誘導、避難所運営等体制マニュアルの見直し検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県
			・様々な情報提供ツール（SNS等）を活用した防災情報やリアルタイム情報の提供 （指定避難所以外や対象市町以外で避難可能な施設のお知らせ及び災害ボランティアの受入れ等）	引き続き実施	市町
			・大規模災害発生時及び発生後の通行可能道路の情報共有・提供	引き続き実施	市町、熊本県、国（道路管理者）
			・下流部の洪水氾濫、高潮災害、土砂災害等における安全な避難の実施に向けた広域避難計画の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川
			・消防等防災拠点と連携した大規模災害時の情報共有体制の確立	引き続き実施	市町
			・災害の種類に応じた避難計画及び、避難所の指定及び運営検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県
			・民間企業と連携した一時避難所の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町
			・浸水時において確実な避難に資するため、避難経路の安全対策、検討、整備	平成28年度より順次実施	市町
			●浸水が広範囲におよぶ場合、避難者数の増加や避難所の浸水等により避難所が不足する可能性がある。		P
・広域的に避難者を受入れられる避難所の把握検討、整備、安全安心な避難施設（水洗トイレ、夜間照明、屋外グランド、駐車場等）の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町			
・災害の種類に応じた避難計画及び、避難所の指定及び運営検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県			
・民間企業と連携した一時避難所の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町			
・浸水時において確実な避難に資するため、適切な避難所の設置及び運営、検討、整備	平成28年度より順次実施	市町			
・広域的に避難者を受入れられる避難所の把握検討、安全安心な避難施設の検討（水洗トイレ、夜間照明、屋外グランド、駐車場等）・整備	平成28年度より順次実施	市町			
●現在の避難場所は、計画規模を超える洪水による浸水を想定したのになっていない。		Q	・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域及び時系列氾濫シミュレーションの策定、公表	平成28年度より順次実施	熊本県、菊池川河川
			・想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域等を踏まえたハザードマップ及び避難計画の見直し	平成29年度から順次実施	市町
			・地区の住民が主体となったマイハザードマップの作成・支援及び避難訓練の検討、実施	平成29年度から順次実施	市町、菊池川河川
			・広域避難計画等を反映した洪水ハザードマップの策定、周知及び避難訓練の検討、実施	平成29年度から順次実施	市町
			・熊本県北全体の自然災害による被災履歴等災害情報を表示した広域ハザードマップの検討、整備	平成29年度から順次実施	市町、熊本県、菊池川河川
			・避難及び誘導、避難所運営等体制マニュアルの見直し検討、整備	平成28年度から順次実施	市町、熊本県
			・広域的に避難者を受入れられる避難所の把握検討、整備、安全安心な避難施設（水洗トイレ、夜間照明、屋外グランド、駐車場等）の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町
			・災害の種類に応じた避難計画及び、避難所の指定及び運営検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県
●現在の避難場所は、要配慮者を想定して指定されていない。		R	・避難及び誘導、避難所運営等体制マニュアルの見直し検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県
			・広域的に避難者を受入れられる避難所の把握検討、整備、安全安心な避難施設（水洗トイレ、夜間照明、屋外グランド、駐車場等）の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町
●災害に応じた避難所及び避難経路の設定がなされていない。		S	・災害の種類に応じた避難計画及び、避難所の指定及び運営検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県
避難誘導体制について					
○一部の自治体では地区の代表者（区長、消防団、自主防災組織、民生委員等）との避難に関する情報共有に関するマニュアル等がある。					
○全ての自治体において、自主防災組織が組織されている。					
○地域防災計画により、避難所運営、ボランティアの受け入れに関する役割等の記載があり、マニュアル等詳細な計画を立てている自治体もある。					
●自治体によっては、マニュアルはあるが、情報が更新されていないものもある。		T	・避難及び誘導、避難所運営等体制マニュアルの見直し検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県
			・自主防災組織の活動を更に活性化させるための取組	引き続き実施	市町
●自主防災組織の活動実績が少なく、活動も限られている組織もある。		U	・自主防災組織の活動を更に活性化させるための取組	引き続き実施	市町
			・被災地で現地対応した現場経験者のノウハウを生かした災害時のサポート体制づくりの検討	引き続き実施	市町
●これまで大規模な避難所運営等の経験が少なく、大規模災害時には、避難所運営やボランティアの受け入れに関して混乱をまねくおそれがある。		V	・被災地で現地対応した現場経験者のノウハウを生かした災害時のサポート体制づくりの検討	引き続き実施	市町
			・避難及び誘導、避難所運営等体制マニュアルの見直し検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県
			・デックフォース、リエゾンのような自治体間での応援体制の仕組みづくりの検討、整備	平成28年度より順次実施	市町

【③水防に関する事項】

現状での取組状況及び課題と概ね5年で実施する取組

現状の取組状況及び課題		概ね5年で実施する取組		目標時期	取組機関
③水防に関する事項					
河川水位等に係る情報の提供について					
○水防に係る情報として、河川管理者が基準水位観測所の水位の動向に応じて自治体により「水防警報」を発令している。 ○大雨等による甚大な災害が危惧される場合は、気象台長より首長等に対して情報伝達（ホットライン）を行なっている。 ○河川管理者は、堤防の決壊、溢水等の重大災害が発生するおそれがある場合には、首長等に対して情報伝達（ホットライン）を行っている。 ○熊本市と、光ファイバーが接続による河川水位やライブ映像を提供している。					
●熊本市以外の自治体においては、避難の判断材料となる河川カメラ等の映像情報を提供できていない。	H	・迅速な避難に資するための水位等のリアルタイム情報の提供に向けた、河川カメラ、簡易水位計の設置検討、整備	引き続き実施	菊池川河川	
		・自治体への光ケーブル接続とカメラ映像配信のための環境整備に関する検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、菊池川河川	
		・水位情報、映像情報、竜門ダムの洪水調節情報等のリアルタイム情報の提供強化	引き続き実施	菊池川河川	
		・住民の避難行動や迅速な水防活動を支援するブッシュ型のリアルタイム情報提供の構築、整備	引き続き実施	熊本県、菊池川河川	
		・地元FMラジオや防災行政無線を活用した住民への防災情報の周知、他の自治体での普及検討、整備	平成28年度より順次実施	市町	
		・水害リスクの高い箇所におけるサイレン等の設置検討、整備	引き続き実施	市町	
		・高齢者も含む全ての住民へ避難情報を伝達するため、防災行政無線の調整、防災ラジオ配布等の検討、整備	引き続き実施	市町	
		・夜間でも視認可能な危険度レベル表示の工夫（定期的な伐採、照明、蛍光塗料等）	引き続き実施	菊池川河川	
		・橋梁や階段等の既存施設への分かりやすい危険度レベル表示の検討、整備	引き続き実施	菊池川河川	
		・河川情報及び近隣自治体の災害情報を共有できる情報共有手段の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、菊池川河川	
●支川においては急激な水位上昇により、避難を行う時間的余裕が少なく、避難の遅れや孤立が懸念される。	E	・迅速な避難に資するための水位等のリアルタイム情報の提供に向けた、河川カメラ、簡易水位計の設置検討、整備	引き続き実施	菊池川河川	
		・高齢者も含む全ての住民へ避難情報を伝達するため、防災行政無線の調整、防災ラジオ配布等の検討、整備	引き続き実施	市町	
		・夜間でも視認可能な危険度レベル表示の工夫（定期的な伐採、照明、蛍光塗料等）	引き続き実施	菊池川河川	
		・橋梁や階段等の既存施設への分かりやすい危険度レベル表示の検討、整備	引き続き実施	菊池川河川	
水防活動の実施体制について					
○出水期前に、自治体、水防団等（消防団）と重要水防箇所の合同巡視を実施し情報共有を行っている。 また、出水時には、水防団等（消防団）と河川管理者がそれぞれ河川巡視を実施している。					
●消防団が水防団を兼務している場合、水防工法に関する技術の習熟が十分でないことが懸念される。	W	・関係機関が連携した定期的な水防訓練の実施	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
●水防団等と河川管理者で、河川巡視で得られた堤防や河川水位の状況等の情報共有が十分ではないため、適切な水防活動に懸念がある。	X	・水害のリスクが高い区間の共同点検の実施	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・迅速な水防活動を支援するため新技術を活用した水防資機材等の配備検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・災害の種類に応じた避難計画及び、避難所の指定及び運営検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県	
		・迅速な避難に資するための水位等のリアルタイム情報の提供に向けた、河川カメラ、簡易水位計の設置検討、整備	引き続き実施	熊本県、菊池川河川	
●水防団等のサラリーマン化が進み、平日昼間における適切な水防活動に懸念がある。	Y	・自治体への光ケーブル接続とカメラ映像配信のための環境整備に関する検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、菊池川河川	
		・自主防災組織をさらに活性化させるための取組	引き続き実施	市町	
●水防団員へのなり手不足や、地域コミュニティの希薄により、水防活動に関するリーダーシップをとる人材が減っていくことが懸念されている。	Z	・迅速な水防活動を支援するため新技術を活用した水防資機材等の配備検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・自主防災組織をさらに活性化させるための取組	引き続き実施	市町	
		・災害リスクの高い箇所や被災履歴がある箇所等を踏まえた備蓄資機材の配置計画の見直し検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
		・水防活動の担い手となる水防協力団体の募集・指定を促進	引き続き実施	市町	
水防資機材の整備状況について					
○水防資機材については、土嚢袋やロープ、ブルーシート等を水防倉庫等に備蓄している。					
○水防時は、河川管理者が持つ資機材については、大規模な災害時の応援に関する協定に基づき提供している。					
●水防資機材に係る情報共有が十分ではないため、適切な水防活動に懸念がある。	A A	・水防資機材の配置等について、広域的な情報共有と、相互利用に関する仕組みづくりの検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川	
●水防資機材は、設置場所・スペースが制約されており、効果的な配置になっていないおそれがある。		・浸水被害を最小限に抑えるため、迅速な水防活動及び緊急復旧活動を行う拠点となる河川防災拠点等の検討、整備	平成28年度より順次実施	菊池川河川	

【④氾濫水の排水、施設運用等に関する事項】

現状での取組状況及び課題と概ね5年で実施する取組

現状の取組状況及び課題		概ね5年で実施する取組		目標時期	取組機関
④氾濫水の排水、施設運用等に関する事項					
排水施設、排水資機材の操作・運用について					
○樋門等の操作は、操作規則を定めて開閉等を実施している。 ○出水期前には各自治体と合同で操作説明会を開催している。 ○排水ポンプ車や照明車等の災害対策車両・機器は平常時から定期的な保守点検を行うとともに、機材を扱う職員等への教育体制も確保し、常時、災害発生に対応した出動体制を確保している。					
●施設の操作・運用は、各自治体毎に実施しており、広域的な支援等を想定した運営体制にはなっていない。 ●大規模水害を想定した広域的な排水計画が検討されていない。	A B	・広域的な排水作業を行うため、既存排水ポンプ車の有効活用の検討	平成28年度より順次実施	菊池川河川	
		・氾濫水を迅速に排水するための緊急排水計画の検討	平成28年度より順次実施	菊池川河川	
		・洪水予報等の防災情報の意味や災害リスクに関する広報や資料の作成、周知	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川	

【⑤河川管理施設の整備に関する事項】

現状での取組状況及び課題と概ね5年で実施する取組

現状の取組状況及び課題		概ね５年で実施する取組		目標時期	取組機関
⑤河川管理施設の整備に関する事項					
堤防等河川管理施設の現状の整備状況					
○菊池川水系の堤防整備率は、77.7%である。 ○「洪水を安全に流すためのハード対策」として流下能力向上対策、堰改築、浸透・パイピング対策、侵食・洗掘対策を実施中である。 ○平成14年3月より竜門ダムを運用開始している。					
●河川整備については整備途上であり、施設能力を超える規模の洪水が発生した場合は、氾濫するおそれがある。 ●災害時における緊急排水作業や応急対策工事に必要な堤防幅が確保されていない区間もある。	A C	・流下能力対策（堤防整備、河道掘削、堰改築等）	引き続き実施	熊本県、菊池川河川	
		・浸透対策（堤防の質的強化）	平成２８年度より順次実施	菊池川河川	
		・工事車両の転回場を考慮した堤防拡幅の整備	平成２８年度より順次実施	菊池川河川	
		・竜門ダムの危機管理型運用に関する検討	平成２８年度より順次実施	菊池川河川	

現状での取組状況及び課題と概ね5年で実施する取組

現状の取組状況及び課題		概ね5年で実施する取組	目標時期	取組機関
⑥広域避難に関する事項				
災害発生時の支援体制について				
○国から自治体へのテックフォースやリエゾン派遣に関する支援体制について協定を取り交わし対応にあたっている。				
○平成28年熊本地震においては、熊本県北地域以外の災害ゴミを受け入れた実績がある。				
○定期的に水防連絡会等を開催し、関係機関の情報共有を図っている。				
●大規模災害時において、熊本県北地域の自治体間での、広域的な支援体制の構築が整っていない。	A D	・熊本県北全体の自然災害による被災履歴等災害情報を表示した広域ハザードマップの検討・作成	平成29年度から順次実施	市町、熊本県、菊池川河川
		・消防等防災拠点と連携した大規模災害時の情報共有体制の確立	引き続き実施	市町
		・様々な情報提供ツール（SNS等）を活用した防災情報やリアルタイム情報の提供 （指定避難所以外や対象市町以外で避難可能な施設のお知らせ及び災害ボランティアの受入れ等）	引き続き実施	市町
		・関係機関が連携した定期的な水防訓練の実施	引き続き実施	市町、熊本県、菊池川河川
		・広域的に避難者を受入れられる避難所の把握検討、安全安心な避難施設（水洗トイレ、夜間照明、屋外グラウンド、駐車場等）の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町
		・下流部の拡散型氾濫、高潮災害、土砂災害等における安全な避難の実施に向けた広域避難計画の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川
		・河川情報及び近隣自治体の災害情報が共有できる既設情報表示板の有効活用及び新設の検討	平成28年度より順次実施	市町、菊池川河川
		・熊本県北全体の自然災害による被災履歴等災害情報を表示した広域ハザードマップの検討・整備	平成29年度から順次実施	市町、熊本県、菊池川河川
		・大規模災害発生時及び発生後の通行可能道路の情報共有・提供	引き続き実施	市町、熊本県、国（道路管理者）
		・広域的な災害ゴミの回収及び回収場所指定等の事前準備の検討・整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県
		・テックフォース、リエゾンのような自治体間での応援体制の仕組みづくりの検討、整備	平成28年度より順次実施	市町
		・水防資機材の配置等について、広域的な情報共有を行うとともに、相互に使用可能な仕組みづくりの検討・整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川
		・民間企業と連携した一時避難所の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町
		・堤防決壊を想定した対応（情報伝達、復旧工法の検討、排水計画の検討など）に関する演習の実施	引き続き実施	菊池川河川
		・災害時の迅速な避難に向け、河川協力団体と連携した災害時の情報伝達、流域の交流の場の提供、流域ネットワークの構築、平常時の河川情報（防災学習、訓練等）伝達等の検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県、菊池川河川
・災害の種類に応じた避難計画及び、避難所の指定及び運営検討、整備	平成28年度より順次実施	市町、熊本県		
・災害リスクの高い箇所や被災履歴がある箇所等を踏まえた備蓄資材等の配置計画の見直し検討、整備	平成28年度から順次実施	市町、熊本県、菊池川河川		